

人型への眼差し 造型美術にみる”肥満”と”痩せ”(4) ： 古代エジプトの美術(II)

佐々木, 悠
九州大学健康科学センター

熊谷, 秋三
九州大学健康科学センター, 九州大学大学院人間環境学府

<https://doi.org/10.15017/24718>

出版情報：健康科学. 34, pp.79-81, 2012-03-30. 九州大学健康科学センター
バージョン：
権利関係：

—研究資料—

人型への眼差し
造型美術にみる“肥満”と“痩せ”(4)
—古代エジプトの美術(Ⅱ)—

佐々木 悠^{1)*}, 熊谷秋三^{1,2)}

A Look at Human Body Structure,
Obesity and Thinness in Fine Art (4)

—Ancient Egyptian Art (Ⅱ)—

Haruka SASAKI, MD, PhD^{1)*}, Shuzo KUMAGAI, PhD^{1,2)}

(Journal of Health Science, Kyushu University, 34: 79-81, 2012)

古代エジプト文明はナイル河の肥沃な大地(デルタ地帯, 黒い大地)と動・植物の生育しやすい自然環境に支えられ, 約5000年前の先王朝時代より民の定住, 共同体としての集落(ノモス)とともに農耕・牧畜社会が始まった。その後, 幾多の興亡を繰り返しながらも, 神格化されたファラオ王(Fharaph: “大きな家”)のもとに強固な中央集権国家(神権政治, 階層社会)が形成されていったのである^{1,2)}。残された多くの彫刻, 浮彫, ステラ像, 壁画などから推定すると, 当時のエジプト人は比較的小柄な骨格であり(男性身長157cm, 女性148cm; 骨末端ハリス線の解析)³⁾, 皮下脂肪は薄く, 均整のとれた筋肉質と四肢, 女性はやせ型で優美な姿態として平面的に描かれている(図1)。豊富な食材(種々のパン, 家畜の肉類, 魚介, 果物, オリーブ油, 酒, ビール, ワイン)に恵まれ, 現代人と遜色のない活気のある日常生活と食生活を享受していた¹⁾。裕福な階層の人々は3度の食事を食し, 盛大な祝宴や夜会が頻繁に開かれ, 楽士, 踊り子や従者などを侍らせた優雅な様子やワインの製造, 穀物の脱穀, 鳥肉の

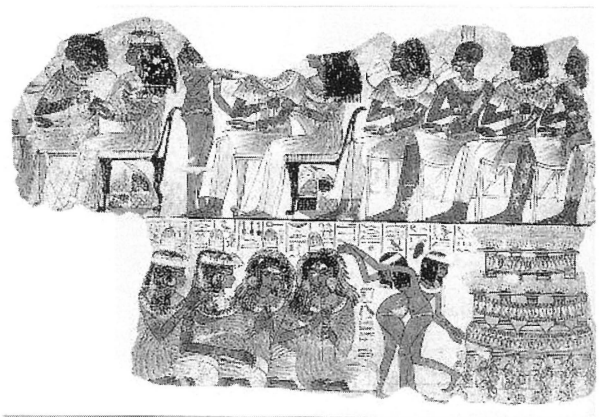


図1. 饗宴の図: 宴会の客をもてなす女楽士や踊り子, ネプアメン墓より出土, 彩色壁画(BC 1300頃), 高さ61cm, ロンドン大英博物館(世界の博物館, 大英博物館I, 朝日新聞出版, 2011, p.14より)

調理の様子など多く残されている(図1, 2)³⁾。

図3 A, Bは, 当時の神官(村長)や宰相(官僚)職にあったとされる男性像(BC 2500年頃)で, 明らかに飽食気味の肥満体である⁵⁾。また最近のミイラ解析か

1) 九州大学健康科学センター, Institute of Health Science, Kyushu University, Kasuga, Japan

2) 九州大学大学院人間環境学府, Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University, Kasuga, Japan,

*Corresponding author: 1-2-6-1202 Momochihama, Sawaraku, Fukuoka City, 814-0001, Japan.

Tel. & fax: +81 92 822 1735. Email address: haruka-s@mx3.canvas.net.jp (H. Sasaki)



図 2. A：鳥肉の調理，B：脱穀後の殻を吹き飛ばしている様子，彩色壁画，BC 1500 年頃（旧約聖書の世界と時代，日本キリスト教団出版局，2011，p.75 より）

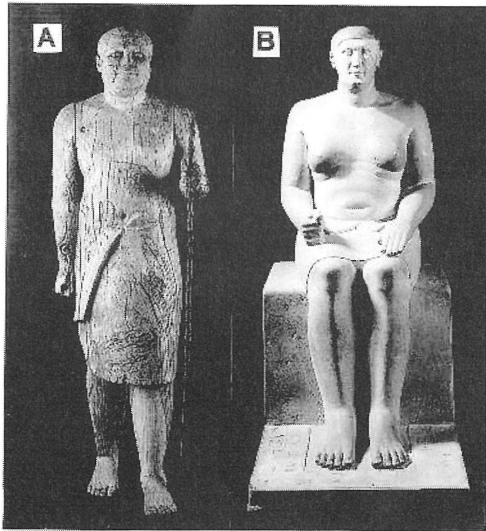


図 3. 特権階級層の肥満像。

A：朗唱神官，カアベル村長の像。

サッカラ，カアベル墓出土，木に彩色（第 5 王朝 BC 2600 頃），高さ 110 cm，エジプト，カイロ博物館

B：宰相ヘムイウヌの座像。

アル＝ギーザ，ヘムイウヌ墓出土，石灰岩に彩色（BC 2530 年頃），高さ 156 cm，ヒルデスハイムベリツアエス博物館（文献 5 より）

ら新王国，男装のハトシプスト女王(Hatshepsut; BC 1479–1457)は皮下脂肪が厚く，糖尿病を有する肥満体

であったこと⁴⁾，第 19 王朝，強国ヒッタイトと果敢に戦ったエジプト最大の王，建築王としても知られるラメセス 2 世 (Ramese II; BC 1304-1237) 遺体には動脈硬化を示唆する石灰沈着も認められている⁶⁾。また，18 王朝，ハトシエプスト王女の祭葬殿の壁面浮彫には，プント王妃 (Queen of Punt; 図 4) とされる過度の肥満，脂肪臀 (steatopygia) を呈した特異な容貌が残されている^{3, 6)}。

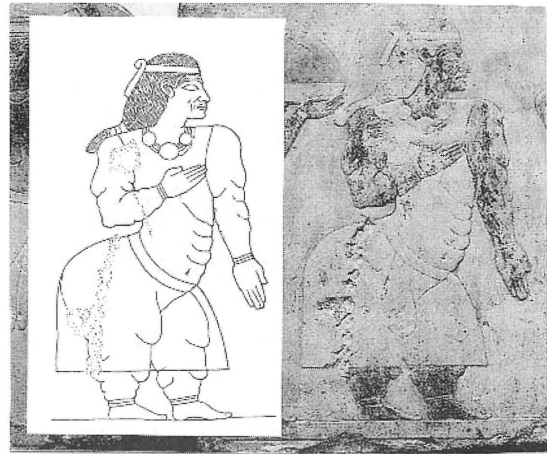


図 4. プント王妃。

過度の脂肪蓄積，脂肪臀，脊柱彎曲を認める。

18 王朝祭葬殿，浮き彫り（文献 3，6 より）

古代エジプト終焉期のプトレマイオス 7 世 (BC 116 年死亡) は“悪徳と愚鈍の肥満王”として^{7, 8)}，また，多彩・多様な守護神，ベス神 (図 5) は“デブの神様”^{3, 8)}として民衆に絶大な人気のあったことが知られている。



図 5. ベス神像。

民衆に最も人気と親しみを持たれた守護神 (クレチン症か軟骨形成不全症との説もある) (文献 7 より)



図 6. 飢餓と痩せのレリーフ。

第5王朝ピラミッド(サッカラ)に至る参道壁面浮彫。(BC 2450-2325)。(聖書の世界, 日経ナショナルジオグラフィック社 2011 より)



図 7. パピルス・エベレス, (病と風土, 学芸林書, 1999, 文献 6 より)

一方, ナイル河の繰り返す氾濫と干魃は, 時に栄養状態の悪化, 感染症の蔓延を招き, 飢饉に苦しむやせ細った民衆の姿も少なくない(図 6)^{3,6)}。またファラオの人々といえども, 幼児死亡率は高く, 多くは短命(先王朝 26 歳, 新王朝 30 歳前後)であり³⁾, 世界最古の医術文書として知られる“エーベルス・パピルス”(Eberus Papyrus; Medical papyrus & Edwin Smith papyrus(主として外科学), 1862: 図 7)^{6,9)}には, 今日的生活習慣病である糖尿病, 痛風などの他, トラコーマ, 結核, 癩, ポリオ, クレチン症, 婦人病(流産・死産), 種々の関節疾患, 外傷などに対する現代からみると呪

術的, 奇想天外と思われる予防法と対処法の記述も少なくないが, 極めて専門家された医師の存在, 衛生学の普及, 血液循環の概念が洞察されていた点など, 古代医学はエジプトから始まったともいえる。

いずれにせよ, 古代エジプトの人々の生活は飢えることのない比較的豊かな生活であったとはいえ, 今日“肥満症”は, ごく限られた特権階級層の人々のみであったと考えるのが妥当であろう。

参考文献

- 1) エヴジエン・ストロウアル(内田杉彦訳)(1996): 古代エジプトの食事, 古代エジプト生活誌, 原書房, pp.279.(Eugan Strouhal(1992): Life in ancient Egypt. Opus Publishing Limited, London)
- 2) 河原よしえ(2008): 古代エジプト, ナイル河畔に築かれた王国三千年の興亡と至宝の文明, 新星出版社, pp. 191.
- 3) Nun JF(1996): The pattern of disease, Ancient Egyptian Medicine, University of Okulahoma Press (Ed), The British Museum Company Ltd, London, pp. 64-95.
- 4) Haslam D and Rigby N (2010): The art of medicine, A long look at obesity, Lancet 376 (9735): 85 – 86.
- 5) ヤローミール・マレク(近藤二郎訳)(2004): 6. 異端の都市, アマルマ時代とその直後, 岩波世界の美術, エジプト美術, 岩波書店, pp. 259-304. (前出)
- 6) ジョイス・ファイラー(内田杉彦訳)(1999): 第 2 章, 病気を示す証拠, 病と風土, 古代の慢性病・疫病と日常生活, 内田杉彦訳, 学芸書林, pp. 42-58. (Jotce Filer(1995): Egyptian Bookself, Disease, British Museum Press, London)
- 7) ロミ&ジャン・フェクス(高園弘美訳)(2005): でぶ大全, 作品社, pp. 30-38. (Jear Feixas & Romi(1996): Tour de Taille; La Petite historie de l' embonpoint, Liber)
- 8) J. チェルニー(吉成 薫, 吉成美登里訳)(1994): 3. 古代エジプト人と神々, エジプトの神々, 弥呂久(新装版), pp. 91-105. (Jaroslav Cerny (1952): Ancient Egyptian Religion, Hutchinson Publishing Group Lmt. London)
- 9) Dawson WR (1967): The Egyptian Papiiri, In Diseases in Antiquity, Brothwell D & Sandison AT (eds), Charles C Thomas • Publisher, Illinois, U.S.A., pp.98-111.